

## 少雨による水不足の懸念に対する水稻の技術対策について

令和5年8月7日  
埼玉県農林部

関東甲信地方の梅雨明けは7月16日頃とみられ、その前後から埼玉県気象旬報によると降水量は「かなり少ない」で推移しています。降水量が少ないことから、ため池等の貯水量の低下により、水不足が懸念されます。

そこで、これに伴う水稻の技術対策資料を作成しましたので、参考にしてください。  
なお、今後も気象情報等に注意してください。

作 型	技 術 対 策
共 通	<ol style="list-style-type: none"><li>1 畦畔等を点検しモグラ穴や崩れ等を補修して漏水を防ぐ。</li><li>2 幼穂形成期から開花期に水不足になると花粉が不稔となり減収となるリスクが高まる。取水可能な水量に応じて供給量を検討し、日中は田面が露出しない程度の浅水を確保する。さらに用水が不足する場合は、数日に1回かん水し、土壌が濡れた状態を維持するよう心掛ける。</li><li>3 かけ流しは用水を大量に使用することから水不足を招き、かえって高温障害を助長する恐れがあるので行わない。</li><li>4 番水制などにより通水時の水量を確保し、効率的な給水に努める。</li></ol>
早 期 栽 培 (~5月上旬植え)	<ol style="list-style-type: none"><li>1 登熟中期から後期を迎えており、出穂期後1週間以降は間断かん水とする。</li><li>2 早期落水を避け、出穂後30日経過してから落水を行う。</li></ol>
早 植 栽 培 (5月中下旬植え)	<ol style="list-style-type: none"><li>1 出穂期から穂揃期を迎えており、出穂期後1週間は深水を維持する。</li><li>2 出穂期後1週間以降は間断かん水とし、根の健全化をはかり、登熟を維持する。</li><li>3 早期落水を避け、出穂後30日経過してから落水を行う。</li></ol>
普 通 栽 培 (6月上中旬植え)	<ol style="list-style-type: none"><li>1 幼穂形成期から穂ばらみ期を迎えており、湛水を維持する。</li><li>2 出穂期後1週間以降は間断かん水とし、根の健全化をはかり、登熟を維持する。</li></ol>
麦あと栽培 (6月下旬植え以降)	<ol style="list-style-type: none"><li>1 中干期から幼穂形成期を迎えている。</li><li>2 出穂期後1週間以降は間断かん水とし、根の健全化をはかり、登熟を維持する。</li></ol>

詳しくは、農林振興センター農業支援部に御相談ください。